

インターンシップ(学外実習)に関する報告書

平成 25 年度

沼津工業高等専門学校

インターンシップ窓口
沼津工業高等専門学校 学生課 教務係
email : kyoumu@numazu-ct.ac.jp
電話 : 055-926-5733
FAX : 055-926-5882
〒410-8501 沼津市大岡 3600

1.	インターンシップ参加者と公募数の推移	2
2.	インターンシップ事前研修	3
3.	インターンシップ受け入れ企業からのアンケート集計結果	4
4.	記述式質問 7, 8, 9 のまとめ	6
5.	インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果	8
6.	今年度実施した改善点	10
7.	3年生対象のインターンシップ説明会	15
8.	インターンシップの今後	16
9.	平成 26 年度インターンシップスケジュール (予定)	17
10.	学外実習生学生心得	18

1. インターンシップ参加者と公募数の推移

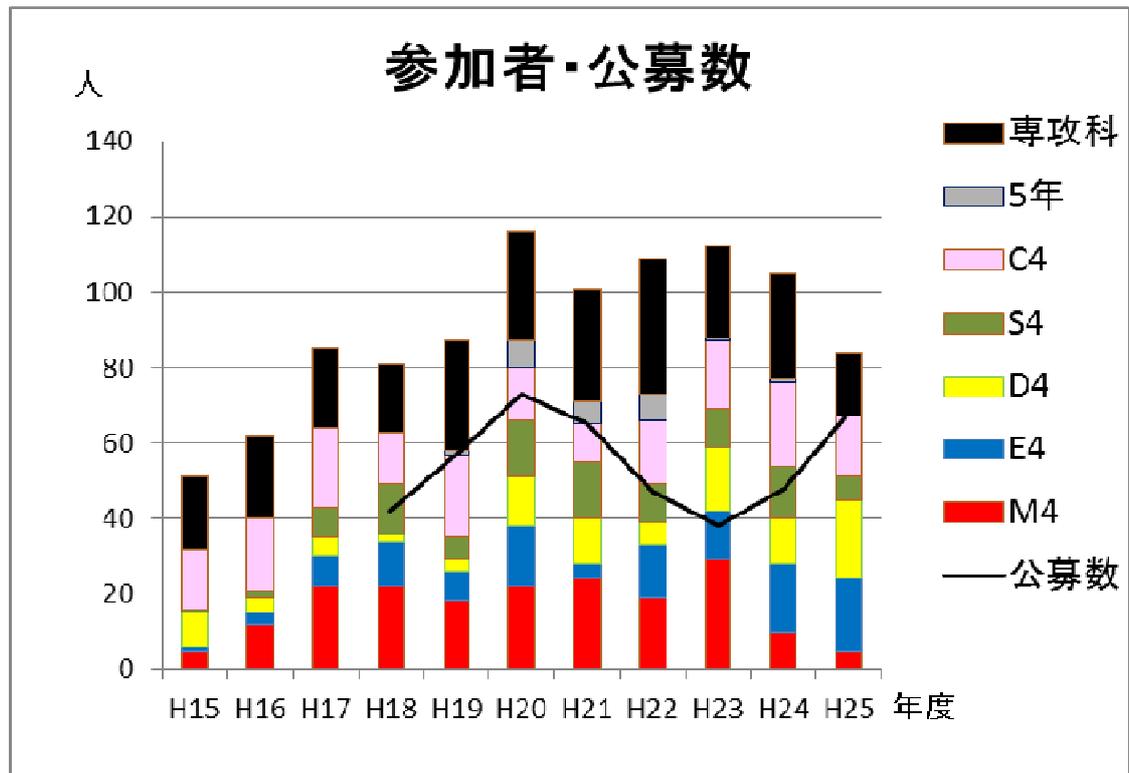


図1 インターンシップ参加者の推移

図1に、平成15年度から11年間にわたり、沼津高専からインターンシップに参加した学生数および、平成18年度以降の公募数の推移を示す。M、E、D、S、Cはそれぞれ、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科、その後の数字は学年を意味する。5年生は参加者が少ないので、5学科をまとめた。また、専攻科生はインターンシップが必須科目であり、全員参加している。公募数は、縦軸の人数を件数に読み換える。

公募数については、平成20年度から平成23年度にかけて減少傾向にあったが、その後平成24、25年度と上昇に転じている。特に平成25年度の公募数の増加は、日本経済再生を目指して打ち出された政府による経済政策が、企業業績回復を後押し、それが反映されたものとみることができる。

参加学生の推移の、主な特徴を以下にまとめる。

1. 平成25年度に参加人数が全体として減少しているが、学科により状況が異なる。D（電子制御）が増加しているのに対して、S（制御情報）とM（機械）は大きく減少している。特にMは、平成24年度に激減してから、さらに減少し、最も参加人数が少ない。E（電気電子）は横ばいである。専攻科

は必修であり、数人を除いてほぼ全員が参加している。平成24年度からの減少分は、在学生の減少分が反映されたものと思われる。

2. ここ2年間で、学科による参加人数の違いが鮮明になってしまったが、今後企業業績の回復に伴って公募数は増えていくと予想されるので、学生の選択肢が広がって、学科による違いは解消されていくと期待される。学校側としては、学科による指導体制に大きな温度差が生じないように、よく連携をとっていく必要がある。

2. インターンシップ事前研修

インターンシップに参加する学生に対して、下記要領で夏休み前に事前研修を行った。

インターンシップ事前研修会

- 1) 日時：2013年7月24日（水）14:50～15:50
- 2) 場所：第一視聴覚教室
- 3) 内容：
 - 14:50 研修会に参加するにあたって（インターンシップ担当教員）
 - 14:55 諸注意（教務主事）
 - 15:00 ガイダンス（インターンシップ担当教員）
 - 15:30 質疑・応答
 - 15:50 終了
- 4) 配布物：なし

上記3)の内容を以下にまとめる。

<研修会に参加するにあたって>

受け入れ機関にとって、インターンシップ参加学生は、個人ではなく「沼津高専」と見ている。高専を代表してその機関へ出向く心構えで、話を聞くこと。

<ガイダンス>

- ① 知的財産を守る
- ② 平成23年度企業アンケートの紹介
- ③ インターンシップ実施までにやるべき事
- ④ 参加時の持ち物
- ⑤ 必要書類
- ⑥ インターンシップ公募リスト閲覧方法
- ⑦ インターンシップ参加時の注意事項
- ⑧ ビジネスマナー
- ⑨ その他の心構え

<諸注意>

インターンシップの実施にあたり、受け入れ機関の担当の方々が、かなりの労力を注いで準備してきた。また、多数の教職員がサポートしている。それらに感謝の気持ちを持って参加して欲しい。もし、何か失敗したら、すぐに正直に報告して謝ることが大切である。

3. インターンシップ受け入れ機関からのアンケート集計結果

平成25年10月、本校インターンシップを受け入れて下さった機関に対し、下記のアンケートをお願いした。なお、このアンケートは平成18年から7年間、同一内容で実施しており、その7年分の集計結果を図2に示す。

沼津高専のインターンシップに関するアンケート回答用紙

貴社名 _____ 所属部署名 _____

記入者名 _____ E-mail _____

質問1. 記入者の方は、インターンシップにはどのように関わりましたか？

→人事課系（主に手続きや企画を担当）、現場系（主に学生の直接指導を担当）

(5択)

質問2. 本校から参加した学生は、実習に積極的でしたか？（複数名参加の場合は平均値）

→非常に積極的、積極的、普通、消極的、非常に消極的

質問3. 本校から参加した学生の能力は、高いと感じましたか？

→非常に高い、高い、普通、低い、非常に低い

質問4. もし来年度も、本校の学生が御社を希望した場合、受け入れて頂けますか？

→是非募集したい、希望があれば、検討したい、難しい、遠慮したい

質問5. 学校側の、インターンシップに関する対応はどう感じますか？

→非常に丁寧、まあ満足、必要最小限、不十分、大いに検討改善を希望

質問6. インターンシップの企業としてのメリットは感じますか？

→大いにある、多少ある、学生による、あまりない、全くない

(以下文章形式)

質問7. 今後、インターンシップに参加する学生に伝えたい事があれば、お書き下さい。

質問8. インターンシップ実施に関して、ご要望・ご質問がございましたらお書き下さい。

質問9. その他何かございましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただきありがとうございます。

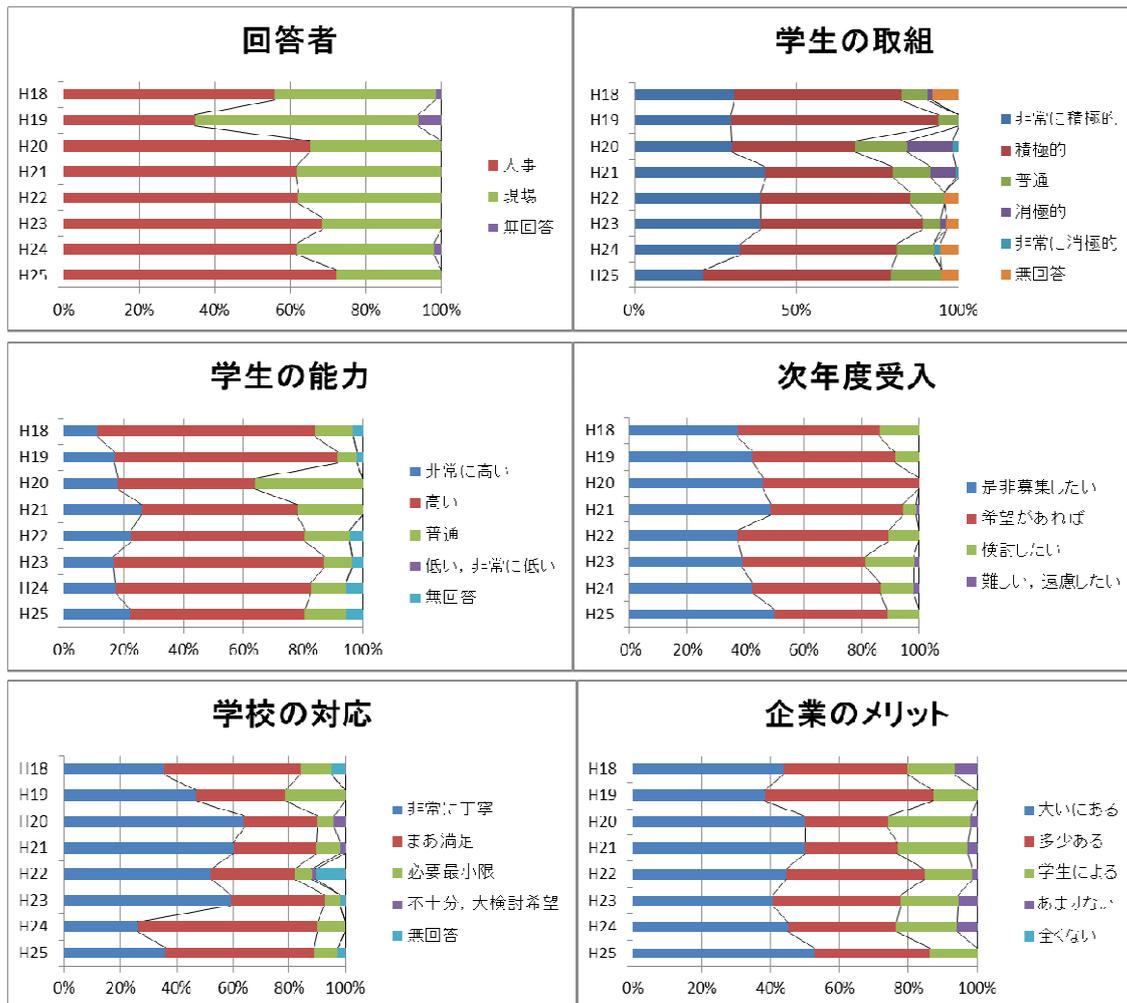


図2 受け入れ機関のアンケート集計結果

これらのデータより今年度の傾向として、以下のことが考えられる。

- (1) 平成19年を除き、現場系の回答が3～4割程度である。なるべく直接指導してくださる現場からのご意見も頂けるよう、受け入れ機関への働きかけをしたい。
- (2) 学生の取組みで「非常に積極的」という回答の減少が目立つ。積極的を含めると75%～80%程度で積極的な姿勢が推移しているが、やや減少傾向にあることは否めない。これは単純に、学生の質の低下が心配される。同時に、受け入れ機関の評価も厳しくなってきた可能性もある。しかしそれに反して、次年度の受け入れは増加傾向にある。これは、学生を受け入れる企業側の景気が回復し、より多くの人数を受け入れられるようになってきたからだと思われる。
- (3) 昨年度、学校の対応が非常に丁寧との回答が激減したが、本年度はやや回復した。まあ満足を含めると90%程度の推移で学校側の対応に好評価をいただいている。今後も企業アンケートを通じて、企業側の意向を学校側が確認し、学生に伝達するとともに、企業ごとに丁寧な対応をしていく必要があると感じる。
- (4) 企業側のメリットがあると答えた割合は、やや増加傾向にあり、本年度8割を超え

た。あまりないとの回答は本年度なかった。

なお、学校に送られてくる募集要項に、「本社に就職を考えている者」と明記している企業が散見される。もちろん、学生がインターンシップの行き先を検討する際には、将来の希望進路を考慮して選択するよう指導している。また、学生の能力を就職前に判断できるという意味で、企業側のメリットとなり得る。しかし、直接的な就職活動との結びつけを明示されるのは、学生の自由な就労体験の妨げとなる。その辺りの認識を、企業側と共有していくことが必要であると考え。

4. 記述式質問 7, 8, 9 のまとめ

記述式の質問項目には、たくさんの企業の方々からご指摘、コメント、感想などをいただいた。すべての回答を示すことは紙面の都合でできないが、それらの代表的な意見をいくつか下に示す。

質問 7 : インターンシップに参加する学生に伝えたいことは？

- ①挨拶、②積極性、③事前学習、④意思疎通のためのコミュニケーション、⑤目的意識をもったの参加など、共通したご指摘をいただいている。
- ・企業名で判断するよりもカリキュラムの内容で決めてもらいたい。
- ・あいさつや質問の際は、大きな声ではっきり話すことを心掛けてほしい。
- ・実験に対しては積極的でよいが、報告書をまとめる力を養ってほしい。
- ・積極的に質問してください。目的を持って参加し、それが達成されたか十分検討してください。
- ・就職活動を前に、企業ではどのような雰囲気やどのような流れで仕事をしているのかを直感で感じられる絶好のチャンスなので前向きに取り組んでもらいたい。
- ・海外研修を計画しているので最低限の語学力（英語）を身につけてほしい。
- ・興味のある内容について事前に質問事項を用意しておくなど、現場ではさらに積極性を持って取り組むことで、幅の広い話が聞けたり、貴重な経験ができると思います。コミュニケーション能力も更に磨いて行ってください。
- ・事前にホームページなどを見て学習してきてほしい。
- ・目的意識をしっかり持った上で参加をお願いします。得るものが全く違ってくると思います。社員とのコミュニケーションを心掛けてください。業務を進めるうえでの報連相だけでなく、雑談も。
- ・事前に聞きたいことがあれば、何なりと連絡してほしい。
- ・仕事以外のところで、各社社風や習慣があります。(5 S、etc) この辺も少し感じ取っていただければと思います。
- ・元気な声で挨拶、会話ができること、積極的に質問を行ってほしいと思います。
- ・インターンシップを通じて、何を学びたいのかという目的意識を明確にして参加してほしいと思います。

質問8：インターンシップ実施に関して、要望・質問は？

- ・「社会人予備軍」として受け入れにあたり、社会常識や業界研究、企業研究などのご指導も頂けるとより良い方向に行くかと（思います）
- ・機械系、金属材料系に関わった学生に積極的にPRしてほしい。
- ・学生に対して、事前に、自分なりの目的（学校の目的でなく）を考えさせると良いかもしれません。受け入れ先企業で、何を求めるのか・得たいのか、なぜそれを得たいのか。成果・評価として、何を求めることができ、自分の意識や知識がどう変わったか、そして評価。といった目標立てがあるといいかもしれません。
- ・今回は5日間でしたが、もう少し長い期間の方がまとまった取り組みができると思います。
- ・私どもが不慣れで、事前に色々問い合わせをさせていただきましたが、とても丁寧に迅速やご対応いただき、円滑に実施まで運ぶことができました。
- ・ここ数年、物質工学科からの受け入れが主となっていますが、機械工学科、電気電子工学科や電子制御工学科等の学科からは参加希望がないのですか。
- ・真夏の実施は実験設備などにも制約が出ることもあるので、実験系にとってはよい時期ではないようです。

質問9：その他なにかありましたら。

- ・マシン、ツールの関係で受入上限が決まってしまう。
- ・さらに専攻科の学生を積極的に受け入れたい（優秀な学生が多いので）
- ・今回、大変優秀な学生の方を送り込んでいただき、誠にありがとうございました。
- ・インターンシップは、就労体験を目的に実施しているため評価は一切行っておりません。
- ・就職先を見ると医薬品業界が多く、自動車業界が少ないように見受けられます。このインターンシップを通して、日本のものづくりの根幹を担う自動車、自動車部品産業の魅力と、その中で特に生産技術職において、高専生のキャリアとのマッチングがよいことを少しでも伝えられたらと思います。
- ・インターンシップ期間中に、先生にお越しいただきました。ご多忙にも関わらず、ありがとうございました。

質問7～9を通して、学生に対する要望が、学校に対する要望を上回っていた。1月に実施した3年生対象のインターンシップ説明会時に、学生に対する要望を学生達に伝えた。また、来年度インターンシップ担当者に、学校に対する要望について伝達・検討する予定である。

5. インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果

平成25年10月、インターンシップに参加した本校学生（本科生，専攻科生）に対し、下記のアンケートを実施した。参加学生に対するアンケートは、平成18年から8年間にわたり取ってきた。その目的は、学生の意識調査および参加の実体を把握し、次年度実施時の参考とするためである。

なお、以下に示すアンケート項目は、平成22年度に、それ以前のアンケートの質問項目を大幅に絞り込み、学生が答えやすく、かつ次年度参加学生に参考となる内容に見直したものである。よって図4には、ここ4年間にわたる集計結果を示す。なお、満足度のみ8年間を通して調査してきたので、あわせて示した。

平成22年度より実施したインターンシップ学生用アンケート（集計項目）

- (1) 期間中の宿泊場所
①自宅，②下宿，③社員寮，④ホテル，⑤その他
- (2) 通勤方法
①徒歩，②自転車，③バイク，④電車・バス
- (3) 通勤時間
①30分以内，②1時間以内，③90分以内，④それ以上
- (4) 主な実施内容
①見学，②研修，③実技，④その他
- (5) 受け入れ企業でのまとめ
①プレゼン，②報告書，③面談，④なし
- (6) 参加した主な目的
①単位取得，②能力向上，③就労体験，④適性探索，⑤その他
- (7) 不足していたと感じる事前準備
①安全・知的財産，②企業研究，③能力・姿勢，④マナー，⑤技能，⑥その他，⑦不要
- (8) 満足度
①非常に有意義，②概ね有意義，③あまり意義なし，④全く意義なし
- (9) 成果
①力が向上，②就労体験できた，③適性が分かった，④その他

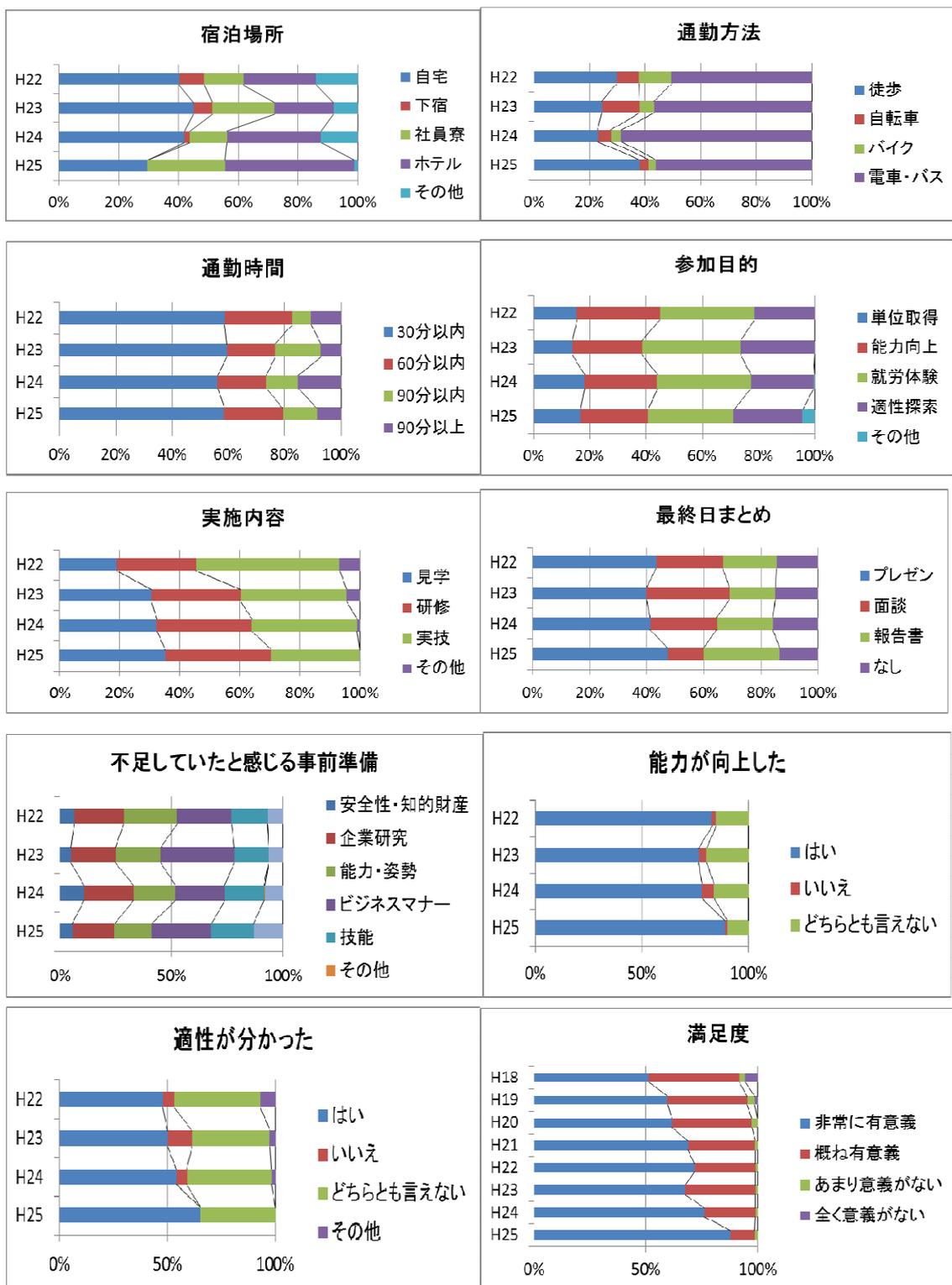


図4 参加学生のアンケート集計結果

(1) 宿泊場所・通勤方法・通勤時間

通勤に、電車・バスを利用する学生の割合が過半数であるが、本年度はホテ

ルから徒歩で通う者が増加した。自宅から通った学生が減っており、通勤場所が遠方化していることが分かる。

(2) 実施内容

見学・研修が増え、実技が減少する傾向にある。企業アンケートに、つぎのような記述があった。「弊社のインターンシップは特徴があります。①直接現場には入らない。②シーケンス設計、配線作業、プログラム設計～デバッグ、通電・組み合わせ試運転と多くのことを体験します。③高専 OB/OG が複数名密着指導します。」

(3) 最終日のまとめ

面談が減り、プレゼンテーションと報告書の割合が増えている。この二つは、技術者として勤める場合、日常の業務として極めて重要な位置を占めるが、インターンシップにおいても、その訓練がなされていることが良く分かる。

(4) 参加目的

依然として単位を目的に参加したと答えた学生が2割弱いる。学生の意識改善が必要である。

(5) 不足していたと感じる事前準備

この中で、ビジネスマナーについては、企業アンケートにおいても指摘を受けている。事前研修において訓練しているが、十分身につけていないことが伺える。昨年度に比べ、若干増加しており、さらなる学習強化対策が必要と考えられる。

(6) 成果

能力が向上したと答えた学生が、毎年7割以上おり、本年度は90%近くに及んでいる。好評価であるといえる。学生が真剣に取り組んだことの表れであると思う。ただし、昨年を引きつづき、実施内容に見学の割合が増えてきているので、実際のスキル向上につながっているかは不透明である。積極的に質問や発言をして、実習内容を完全消化することにより、補うしかないと思われる。

(7) 満足度

8年間を通して、ほぼ増加傾向にあり、本年度は90%を超えるに至った。受け入れ機関のご尽力あってのことであろう。学校側もその努力に応えるべく、インターンシップがより実施しやすく、受け入れ機関にとっても意義のあるものとなるよう、反省点をふまえて改善する努力を惜しんではならない。

6. 今年度実施した改善点

数年前から、インターンシップ情報を E-learning の Moodle に集約し、ここにアクセスすれば、学生がインターンシップに関する重要な情報を知ることができるようになってきている。一部教員専用の部分もあるが、ここで、インターンシップの全体

の流れと詳細で具体的な手続きを知ることができる。また、申請に必要な申請書のダウンロードや、公募企業の申し込み切り日などを確認できる。さらに、クイズ形式で、インターンシップに関する練習問題を行えるようになっており、ビジネスマナーなどを事前に独習することができる。

本年度、特に改善した点は、これまで学生アンケートを電子メールで送って集計していたのを、Moodle 上で学生が入力すると、自動集計できるようにした点である。これによって、アンケート集計者の負担軽減を図ることができた。

なお、教員専用の部分は、企業側との連絡状況を掲示板を通じて情報交換できるようにしたもので、情報の統一化と円滑な学生指導に寄与している。

以下に、インターンシップ実施までの、高専の教員や学生、それをサポートする事務部の、それぞれのなすべき事を、学内で管理する e-learning システムにまとめた。以下に簡単に紹介する。

6-1. Moodle を利用したインターンシップ情報の掲載

図5に示すのは、学内で管理する e-learning システム「Moodle」にブラウザからログインし、コース「インターンシップ」にアクセスしたトップ画面である。イ



図5 Moodle を利用したインターンシップ関連情報

インターンシップに関連する情報は全て、学内からのみアクセス可能な運営方法を取っていた。しかしその場合、長期休暇中やインターンシップ実施中に、その情報を学生が閲覧できない問題があった。そこで、フリーソフトウェアである Moodle を利用し、管理サーバーに登録された学生および教職員は、携帯端末など学外からでもアクセスできるよう改善した。

Moodle に設けたコース「インターンシップ」には、合計 15 項目の関連情報を掲載している。なお掲載順は、上から順に目を通すことで、主として学生の準備や手続きが滞りなく進むように並べている。以下に、主な項目の内容を紹介する。

6-2. 項目 2・3 : 応募方法

まず、インターンシップの目的を掲載したのち、図 6 に示すように学生の応募方法を掲載した。大きく分けて 3 通りの方法がある。手順が分からずにチャンスを逃すことのないように、具体的な応募までのフローを図示しており、これまで教員しか得ることのできなかつた情報を学生が直接得ることで、より迅速な準備ができる。

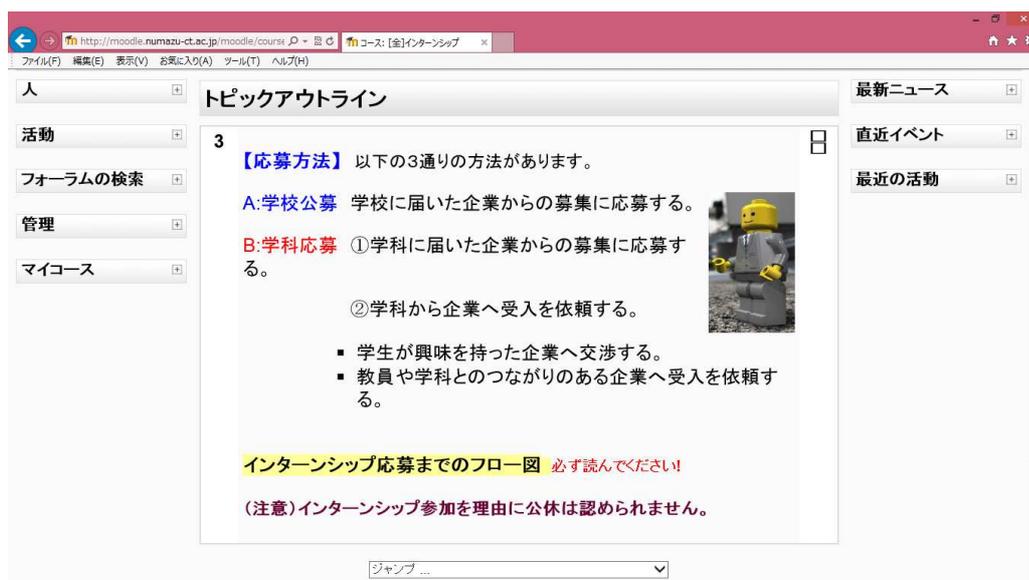


図 6 インターンシップ（学外実習）の応募方法

6-3. 項目 4 : 関係書類

図 8 は、実習前・実習中・実習後に学生・教員がそれぞれ提出する関係書類についての掲載内容の一部である。書類はダウンロードして入力することができる。各書類に関する注意事項やアドバイスも載せた。

4 【関係書類】	
◆本科生◆ <以下、青字の書類はダウンロードしてご使用ください。>	
実習前	1. 沼津高専インターンシップ履歴書【学生】 ①写真が必要となるので、参加希望者は事前に用意しましょう。 ②学生が記入し、指導教員に提出し指導を受けましょう。 ③指導教員は、教務係へ提出 ※履歴書は、特に指定のない限り手書きが望ましいと思われます。 手書きで大切な事は、上手いか下手かではなく、丁寧か雑かという事です。 意外にも書いた字であなたの印象が変わります。 5年生の就職活動でも履歴書は必須です。 内容はもちろんですが、履歴書作成の練習を心がける事をお勧めいたします。
実習前	2. 学外実習推薦書【指導教員】 ①指導教員が作成し学長が内容を確認し押印する。 ②沼津高専インターンシップ履歴書と学外実習推薦書を合わせて教務係へ提出する。 ※学科応募の場合は、詳細事項があれば添付する。 ない場合は、応募先の会社名、役職名、氏名を確認し、正確な情報を記載する。 受入をお願いするにあたり、会社名、役職、氏名の間違えは、社会的にあってはならない事です。
実習中	3. 実習日誌【学生】 ①実習開始日に持参する。 ②日々記入後、受入先担当者へ提出し確認印をもらう。 ③実習終了後に指導教員へ提出。
	4. 学外実習報告書【学生】

図7 関係書類における注意事項

6-4. 項目7・8：公募リスト・進行状況の共有

図8は、受け入れ機関から本校に寄せられた、インターンシップ公募のリスト、および各インターンシップ担当教員の進行状況連絡掲示板である。事務処理の合理化のために、インターンシップの募集や申し込みを、インターネットから行う企業がある。携帯端末の爆発的な普及から、今後ますますこのような企業が増加すると思われる。この公募リストは、募集が届き次第、その案内を届いた書類とともに掲



図8 公募リスト



図9 進行状況の共有

載する。学生はこの情報を見て応募する。また、公募に無い企業へインターンシップの受け入れを問い合わせる場合、複数の教員が同一企業へ問い合わせるのは、先方にとって煩わしいので、この重複を防止するため、図9のように進行状況連絡掲示板を設けた。ここに書き込むことにより、情報の共有化をはかり、効率的な学生指導に役立てた。

6-5. 項目10：学生のためのビジネスマナー勉強部屋



図10 学生のための勉強部屋

図10は、勉強部屋と称する、オンラインで学生が自主的にビジネスマナーを学習できる項目である。受験すれば、採点結果や、間違ったときのアドバイスなども表示される。また、教員は学生の受験結果の集計も可能である。

6-6. 受け入れ機関のアンケートのWeb掲載

本年度は、企業へのアンケートファイルを本校Webサイトからダウンロードできるようにし、ファイルに入力してメール添付で返信できるようにするとともに、Web上からも直接返信できるようにした。これによって、アンケート回収率の向上とともに、アンケート集計処理の効率化を図った。

7. 3年生対象のインターンシップ説明会

受け入れ機関・参加学生の、全てのアンケート集計後に、次年度インターンシップに参加する可能性のある学生、すなわち現3年生に対して、下記要領でインターンシップ説明会を行った。春休み中に行き先候補を考えておくように、学生に指導した。

インターンシップ説明会

- 1) 日時：2014年1月15日(水) 14:50~15:50
- 2) 場所：第一視聴覚教室
- 3) 内容：
 - 14:50 開会の挨拶・心構え(教務担当教員)
 - 14:52 概要説明(インターンシップ担当教員)
 - 15:05 各学科の実施報告(各学科4年担任教員)
 - 15:45 質疑・応答
- 4) 配布物：なし

上記3)の内容を以下にまとめる。

<開会の挨拶・心構え>

インターンシップの、次のステップである就職・進学が重要である。4年生になったら、すぐにインターンシップのことを検討せよ。

<概要説明>

ある企業からの指摘、インターンシップとは何か、企業アンケート集計結果、学生アンケート集計結果、インターンシップ関連情報収集方法(moodleの活用)、受け入れ機関より学生に伝えたいこと、今後のスケジュール

<各学科の実施報告>

機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科

からそれぞれ、インターンシップ状況について報告いただいた。特に、機械工学科と電子制御工学科は、4年の学生自身による報告があり、3年生には有益だったと思われる。以下に、報告会で示されたパワーポイントの一部を示す。上段2枚が機械工学科4年生のもの、下段2枚が電子制御工学科4年担任のものである。



図 1 1 報告会でのパワーポイントの例

8. インターンシップの今後

図 1 のインターンシップ参加人数の推移に示されるように、学科によって参加人数に大きな開きがある。このことは、学科ごとにインターンシップに関する学生の熱意の差や、指導する側の学生への PR の度合いに温度差があるからだと思われる。企業からも特定学科からの応募ばかりで、他の学科からの応募はないのかというご意見をいただいている。専攻科では、インターンシップは必修化されており、平成 26 年度からは 4 か月に渡る長期インターンシップが始まる。実学を重んじる本校において、インターンシップの持つ意味は重くなりつつあるとあってよい。本科においても、指導する側の統一理解の下、特定学科に偏ることなくインターンシップに参加する学生数が増加していくことを期待する。

以下参考までに、平成26年度インターンシップスケジュール案および、学生便覧に掲載されている学外実習学生心得を掲載して本報告を終わる。

【インターンシップ担当教員 高野明夫】

9. 平成26年度インターンシップスケジュール（予定）

4月

- 4年新担任教員との新年度インターンシップ事前打合せ、担当引継ぎ
- インターンシップ募集案内掲載開始（学内 Web）
- 学科毎のインターンシップガイダンス
- 行き先希望調査

5～6月

- 担任教員による企業への交渉
- 公募のある企業への応募

7月

- 事前レポート・必要書類（履歴書含む）作成
- インターンシップ事前研修会（全体・クラス単位・講義など）

8～9月

- インターンシップ実施（8/8(金)～9/12(金)が夏期休業）
- 教員による視察

10月

- 受け入れ機関からの評価
- 参加学生のインターンシップ報告書提出・報告会（学科毎）
- 参加学生に対するアンケート調査
- 受け入れ機関への礼状送付・アンケート調査

1月

- 3年生対象インターンシップ説明会（概要・データ紹介・反省・注意等）

2月

- インターンシップ報告書作成
- 担任教員による評価

3月

- 単位認定

10. 学外実習生学生心得

学外実習（以下「実習」という）は企業等において実際の工業技術を体得するため、専門課程の一環として履修するものであり、実習に従事する学生はこの心得を守らなければならない。

- 1) 学生は、この心得のほか必要な事項、細目について、実習開始前に学外実習指導教員の指示を受けること
- 2) 学生は、実習先の監督者の指導を受けるとともに、次に掲げる事項を守り、実習の目的を十分に達成するよう心がけること。
 - (1) 規律
 - ① 出退勤時間、休憩時間を守ること、無断で欠勤、遅刻、早退等は絶対にしないこと。
 - ② 社内規律、作業内規等の規則に従うこと。
 - ③ 学生として良識ある行動をとり、礼節を守ること。
 - ④ その他社内秩序を乱さないよう留意すること。
 - (2) 社内機密保持
 - ① 無断で設備、製品、図面等社内の写真撮影をしないこと。
 - ② 無断で指定以外の場所に立ち入らないこと。
 - ③ 許可なく、製品、研究、文献、ソフトウェア、図面、談話等を社外に漏らさないこと。
 - ④ 教員へ提出する報告には、企業秘密事項を含めないこと。
 - (3) 安全保持
 - ① 監督者の指示・説明に従い、独断で作業をしないこと。
 - ② 実習先の作業心得、安全心得をよく守り、細心の注意を払い、事故を起こさないよう心がけること。
 - ③ 万一、事故又は異常事態が生じた場合は、直ちに、監督者に報告するとともに、すみやかに指導教員に連絡すること。
 - (4) 作業態度
 - ① 監督者の指示に従い、独自の行動はとらないこと。
 - ② 実習先の社員等に対しては、努めて謙虚な態度で接すること。
 - ③ 必要以外の設備等には手を触れたりしないこと。
 - ④ 実習期間中は、毎日、作業の終了を監督者に報告すること。
 - (5) 用具の使用
 - ① 無断で社内の用具を使用しないこと。また、使用後は必ず元の場所に返しておくこと。
 - ② 許可なく物品の搬入・搬出をしないこと。
- 3) 学生は、実習期間中、常に指導教員と連絡を保つとともに、実習内容の変更があった場合は、速やかに指導教員に報告すること。
- 4) 学生は、実習終了後、実習報告書を実習先に提出するとともに、すみやかに経過を指導教員に報告すること。またその際、企業秘密事項が含まれていないかを確認すること。

学生便覧（平成26年度 pp.70～72）より抜粋